

令和元年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
園芸部門

水田フル活用によるブロッコリーの大規模な複合経営を実現

○氏名又は名称 有限会社安井ファーム（代表 安井 善成）

○所 在 地 石川県白山市

○出 品 財 経営（ブロッコリー）

○受 賞 理 由

・地域の概要

石川県白山市は、県南部中央に位置し、県内最大の手取川流域にあり、全国でも降水量、降雪量が多い地域である。総耕地面積は、約4,700haであり、水田の耕地面積が約95%を占め、水稻、大豆、大麦の2年3作の作付体系が主流となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

安井善成氏は、平成6年に父の元で就農し、13年に今後の経営発展を見据えて法人化を主導した。15年頃から近隣の水稲生産法人の先陣を切り、水稻、大豆にブロッコリーを加えた複合経営を開始した。ブロッコリーの栽培では、水稻の裏作や近隣市町の水田の期間借地により規模拡大を実現。現在では、延べ作付面積117ha（ブロッコリー64ha、水稻30ha、大豆15ha）の北陸地域でトップレベルの水田園芸複合経営を行っている。

・受賞者の特色

（１）期間借地に着目した独自2年3作体系による規模拡大

水稻中心の土地利用型農業が盛んな白山市では空き農地が少なく、ブロッコリーの大規模な規模拡大が困難であったが、近隣市町の大麦跡水田に未利用期間があることに着目し、これを「期間借地」することで秋作は場を確保し、ブロッコリーの飛躍的な規模拡大を行った。さらに、北陸では難しい水稻跡の越冬作型を開発するなど、創意工夫により安井ファーム式2年3作体系を確立し、高収益複合経営を実現した。

（２）従業員の主体性を重視した人材育成の実践

安井善成氏は、目標や成果、課題を従業員自らが設定する目標管理シートを導入することや、課題に対して、他産業での職務経験で培った少人数での業務改善手法を取り入れることで従業員の主体性を育む人材育成を実践している。

・普及性と今後の発展方向

安井ファームの水稻と園芸を組合わせた複合経営は、高収益な水田農業の新たなモデルとして県内外へも波及している。今後は、経営理念である「農業を通じて、働く人に幸せとお客様の幸せを願い、実現すること」を大切に、スタッフ、地域、顧客のために次世代に繋いでいきたいと考えている。